

2-2

アクションカタログについて理解しよう

アクションカタログはマクロを作成するのに重要なツールです。実際にマクロを作成する前に、分類されている3つの機能について理解しておきましょう

2-2-1 プログラムフロー

フローとは**流れ**のことですが、プログラムがどのように動くかという**枠組み**や、機能を整理してわかりやすくする**見た目**に関連する部分がまとめられています(図12)。

プログラムは基本的に、設定された動作を上から順番に実行していくものですが、プログラムフローの「If」や「サブマクロ」を使うことで、「この部分はある条件を満たしたときだけ実行する」「この場合はここまでジャンプする」など、動きにバリエーションを付けることができます(図13)。

図13 プログラムの動きにバリエーションを付ける

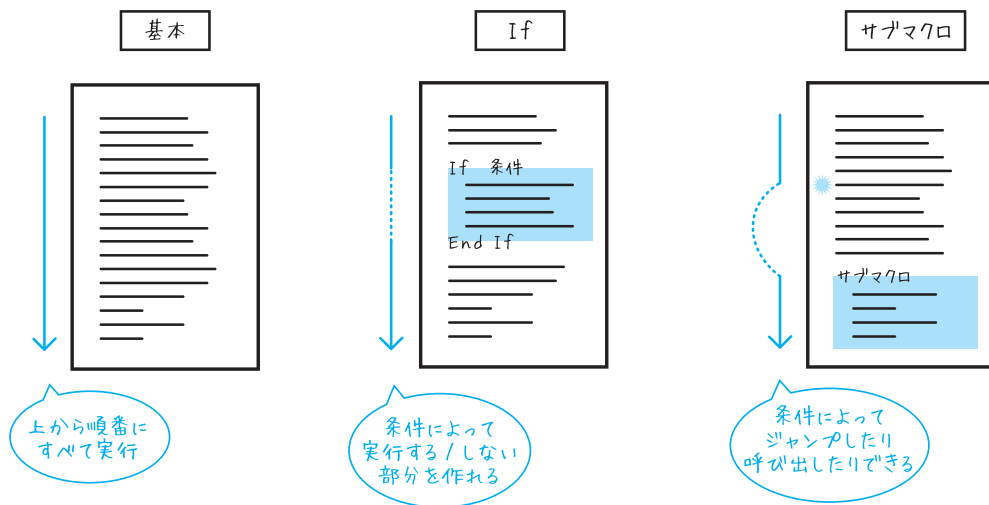
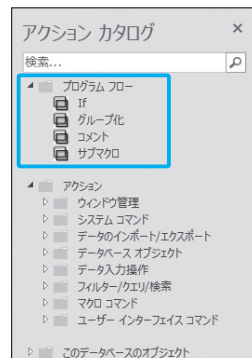


図12 プログラムフロー



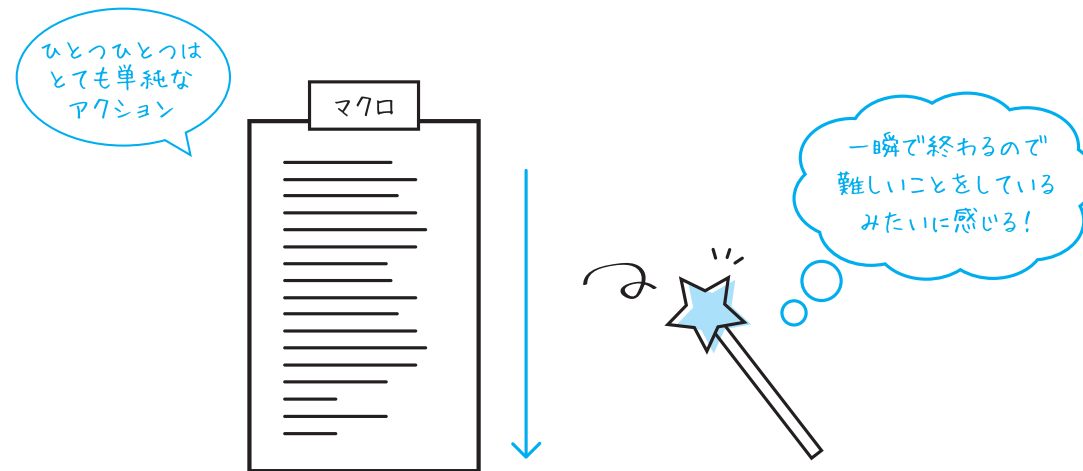
2-2-2 アクション

アクションは、ひとつひとつの**命令**のことです。分類して格納されています(図14)。

プログラムに対して**複雑そう・怖そう**などのイメージを持つ方も多かもしれませんが、ひとつひとつは実はとても単純なもので、「アクション」から実行させたい項目を選んで、マクロウィンドウに上から並べていくだけで、マクロは作れてしまうのです(図15)。

それぞれは単純でも、複数の命令が一瞬でぱっと終了するので、まるで魔法のように感じられるんですね。

図15 マクロは「アクション」を並べて作る



なお、アクションカタログや「新しいアクションの追加」リストで選択できる項目は、最初は安全性の低い動作は除外されています。自作のものなど、そのデータベースファイルが信頼できる場合、リボンの「すべてのアクションを表示」をクリックしてオン(グレーの状態)にすることで項目が増え、より高度な機能をマクロに追加することができます(図16)。

図14 アクション

